

中丹地域振興計画

京都府中丹広域振興局

目 次

- 1 地域のポテンシャル（魅力の源泉）
- 2 地域のポテンシャルを活かした重点プロジェクト
- 3 「わくわくする中丹」の実現に向けた対応の方向性
- 4 具体的施策

中丹地域振興計画の数値目標

参考資料

1 地域のポテンシャル（魅力の源泉）

（１）安心・安全・共生の基盤

- ・ 由良川水害の経験を踏まえた流域治水の取組や、自主防災組織の高い組織率、原子力防災への備えなど地域の安心・安全を支える基盤に加え、地域医療体制の充実や外国人住民との共生に向けた取組などが進められており、誰もが安心して暮らし続けられる地域の強みとなっています。

（２）学びと若者・人材育成

- ・ 福知山公立大学、舞鶴工業高等専門学校など、地域の学びと産業をつなぐ高等教育・人材育成機関が立地し、若者が地域課題や企業活動に関わりながら実践的な知識・技術を身に付ける環境が整っていると同時に、地域外の大学等のフィールドワークや地域連携活動の受入れも行われており、多様な人材の交流を通じて新たな価値創出が進められています。

（３）ものづくり・雇用・産学公連携

- ・ 長田野工業団地、綾部工業団地等を中心に、多様なものづくり企業が集積し、高度な技術や製造ノウハウが蓄積されているとともに、日本海側の物流拠点である京都舞鶴港を有し、北部産業創造センターをはじめとする産学公連携の推進や、今後整備される農林水産技術センターの次世代農林水産業・フードテック実証拠点機能を生かした研究開発や技術実証を進められる予定であり地域産業の発展を支えるポテンシャルを有しています。

（４）子育て・医療・暮らしやすさ

- ・ 大江山、由良川、舞鶴湾などの豊かな自然環境に加え、地域医療を支える医療提供体制、暮らしを支える生活機能、地域ぐるみの子育て支援ネットワークなどを背景に、福知山市、舞鶴市及び綾部市は合計特殊出生率が京都府内でも上位に位置するなど、安心して子どもを産み育て、健康に暮らし続けることができる地域であることが強みとなっています。

（５）観光・交流・地域ブランド

- ・ 福知山城、福知山鉄道館フクレル、舞鶴赤れんがパーク、あやべグンゼスクエアなどの観光拠点に加え、クルーズ船・フェリーの玄関口機能を担う京都舞鶴港が立地しているなど、多様な来訪者を受け入れ、地域内へ回遊させる交流資源があり、これらの資源を生かした周遊環境の形成により、地域全体の魅力を体感できる観光・交流エリアとしての発展が期待できます。

2 地域のポテンシャルを活かした重点プロジェクト

中丹地域のポテンシャルを最大限に活かして、以下の重点プロジェクトを展開します。

(1) 安心してともに暮らせる中丹プロジェクト

- ・ 気候変動の影響により今後の降雨量の増加が見込まれることを踏まえ、流域のあらゆる関係者が協働し、ハード・ソフト一体で実施する流域治水の取組を推進します。
- ・ 大規模災害時の自衛隊、警察、消防等防災関係機関の応援隊の集結や救援物資輸送の集配などを担う京都舞鶴港の広域防災活動拠点の機能強化を図るとともに、関係機関と連携した防災訓練を実施します。
- ・ 中丹地域医療構想調整会議において、外来医療、在宅医療、介護との連携、人材確保等を含めた地域の医療提供体制の課題について協議し、解決に向けた取組を進めます。

(2) 若者が未来を拓く中丹プロジェクト

- ・ 福知山公立大学や舞鶴工業高等専門学校をはじめ、中丹地域に関わる高等教育機関、高校、地域企業、行政等が連携し、若者が地域課題や企業活動、地域活動に関わる機会を拡充します。
- ・ 小中学生や高校生が地域の産業や暮らし、文化に触れ、学ぶ機会を充実させるとともに、学校、地域企業、地域団体、行政など多様な主体との連携を通じて、地域への理解と愛着を育み、地域の未来を拓く人材を育成します。
- ・ 企業見学や職場体験、保護者への効果的な情報発信などを通じて、地域企業への理解促進を図るとともに、企業の採用力向上や働きやすい職場づくりを支援し、若者の地元就職と定着の促進につなげます。

(3) ひと・ものを生み出す中丹プロジェクト

- ・ AIをはじめとする先端技術やグローバル化に対応できる人材を育成するため、高等教育・人材育成機関、地域企業、行政等が連携した実践的な学びを推進し、地域産業と地域社会を支える次世代人材の育成を進めます。
- ・ 農林水産業、ものづくり産業をはじめとする地域の産業の高付加価値化と持続的発展に向け、農林水産技術センターの次世代農林水産業・フードテック実証拠点機能を活かした研究開発、技術実証、技術普及及び人材育成、北部産業創造センターにおける技術開発や事業化への支援並びにインフラ・物流基盤の強化を進めます。
- ・ 高等教育・人材育成機関、企業、行政が連携し、若者から社会人、シニア世代まで、学び直しやリカレント教育に加えて、新たな産業創出に取り組める環境づくりを進めます。

(4) 暮らしやすさが魅力の中丹プロジェクト

- 妊娠・出産期から乳幼児期、学齢期までの相談支援や子育てに理解のある職場づくり、地域での見守りを進めるため、交流会などの機会づくりを行うなど、「中丹子育て未来づくり100人会議」により、地域全体で子育て世代を支える環境づくりに取り組みます。
- 外国人住民や外国人労働者の増加を踏まえ、関係機関と連携し、地域での日本語教育や交流機会の充実を通じて、外国人住民が地域社会の担い手として活躍できる多文化共生社会づくりを進めます。
- 管内3市との移住促進ネットワークに加え、京都移住コンシェルジュや北京都ジョブパーク等と連携し、移住・定住情報の共有、仕事や住まいに関する相談、地域とのマッチング、空き家・空き店舗の活用を進めます。

(5) つながりと魅力が広がる中丹プロジェクト

- 福知山市ファームガーデンやくの（道の駅「農匠の郷やくの」）や舞鶴赤れんがパーク、あやべグンゼスクエア等の地域資源を生かした周遊観光や滞在型観光の充実、体験型観光の展開を通じて、地域のにぎわいを創出するとともに、関係人口の拡大につなげます。
- 大野辺緑地をはじめとする港湾エリアの魅力向上や利活用を進めるとともに、交流やにぎわいを創出し、市民や来訪者に親しまれるウォーターフロントづくりを進めます。
- 全国でも高い評価を受ける中丹地域のお茶をはじめ、地域で育まれてきた特産品や、黒谷和紙、丹後和紙、丹波漆などの伝統産業の技術や文化を次世代へ継承するとともに、大学生をはじめ企業や行政等の多様な若者が参画し、地域課題の解決や地域の魅力向上に取り組むプロジェクトを推進します。

3 「わくわくする中丹」の実現に向けた対応の方向性

「わくわくする中丹」の実現に向けて、4つの柱に基づき施策を推進します。

(1) 危機に備え、地域で暮らし続けられる「安心できる中丹」

- ・ 気候変動に伴う自然災害の激甚化・頻発化を踏まえ、流域治水や防災基盤整備、原子力防災、感染症対策、鳥獣被害対策など地域の危機管理体制を強化するとともに、医療・介護・福祉の充実や人権尊重、多文化共生の推進により、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを進めます。

(2) 誰もが役割を持って活躍できる「はぐくまれる中丹」

- ・ 若者の地域定着や子育て環境の充実を図るとともに、学びから就業、地域活動、移住・定住までを切れ目なく支援し、デジタル技術の活用やリカレント教育、地域や社会を支える担い手育成を通じて、多様な人材が地域の未来を支える担い手として活躍できる環境づくりを進めます。

(3) 受け継がれてきた多彩な魅力にあふれる「輝く中丹」

- ・ 海・山・川の豊かな自然や歴史文化、食、伝統産業、スポーツなど中丹地域ならではの地域資源を磨き上げ、その魅力を広く発信するとともに、観光交流や関係人口の拡大、地域産業の振興及び次世代人材の育成を通じて、活力と魅力にあふれる地域づくりを進めます。

(4) 人や物の交流の基盤となるインフラ網の整備

- ・ 京都舞鶴港、高速道路、幹線道路、鉄道、地域公共交通などの広域交通・物流ネットワークの整備と機能強化を進め、人や物の交流を支える基盤の充実と地域の利便性向上を図ることで、中丹地域の持続的な発展につなげます。

4 具体的施策

(1) 危機に備え、地域で暮らし続けられる「安心できる中丹」

ア 災害に強い社会基盤整備

□流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を計画的に推進します。

- 気候変動の影響により今後の降雨量の増加が見込まれることを踏まえ、流域のあらゆる関係者が協働し、ハード・ソフト一体で実施する流域治水の取組を推進します。
- 「ため池安心安全マップ」(ハザードマップ)を活用して、災害時の安全な避難を啓発するとともに、農業用ため池の改修・廃止を計画的に進めます。
- 調節池や排水機場の運用などの内水対策に加えて、国や市と連携し市街地の河川改修を更に進めます。(弘法川・法川)
- 市が取り組む内水対策事業(排水ポンプ場整備等)と連携し、市街地の総合的な浸水対策を進めます。(高野川)
- 河川の増水等による住宅地等の浸水を防ぐため、管内3市と連携し浸水対策を進めます。(伊佐津川、高野川、志楽川、河辺川、八田川、犀川、牧川、宮川、和久川、大谷川)
- 河道内や砂防えん堤背面に堆積した土砂を除去し、浸水被害や土石流の発生を抑制するため、計画的な浚渫事業を実施します。
- 由良川改修について、河川整備計画に基づく国管理区間の河道掘削、堤防整備等の国直轄事業を促進します。
- 内水被害の軽減を図るため、国・府・市が連携し、由良川の河道掘削や排水ポンプ場及び排水ポンプ車の効果的な運用等を進めます。
- 避難所や住宅等を守るため危険木除去や簡易防災施設の設置、砂防・急傾斜地崩壊対策事業や、京都府災害関連地域防災がけ崩れ対策事業(市町村事業)の支援等により、土砂災害対策を進めます。(砂防事業、急傾斜事業、治山事業等)
- 護岸や離岸堤の整備、適切な維持管理等を通じて海岸の侵食対策を進めます。また、安全な港湾利用や生物生息地の確保、景観への配慮、海浜の適正な利用を図るため、漂流・漂着ごみ対策を推進します。
- 大規模盛土造成地の安全性を把握する調査を進めるとともに「宅地造成及び特定盛土等規制法(盛土規制法)」等に基づき、関係機関が連携して危険な盛土等の規制を進めます。
- 廃棄物の不法投棄を撲滅するため、監視体制を強化し、早期発見・未然防止に努めるとともに、悪質な不法投棄に対応するため関係機関との連携を強化します。

□災害発生時等の交通ネットワーク確保や交通安全対策を進めます。

- 災害発生時の人員や物資等緊急輸送にかかる交通が確保されるよう、国直轄事業等の広域幹線道路の整備を促進します。(舞鶴若狭自動車道4車線化(舞鶴西IC~福井県)、国道9号(福知山道路、夜久野改良等)、国道27号(西舞鶴道路、青葉改良等)、臨港道路上安久線等)

- 由良川増水時においても、主要な道路の通行を確保できるよう道路整備を進めます。
（国道 175 号（福知山市下天津、舞鶴市志高）、舞鶴綾部福知山線（福知山市川北～猪崎）、綾部大江宮津線（福知山市大江町関）等）
- 子どもや高齢者等の交通事故防止のため、地域、保育所・幼稚園、学校、行政、警察等と連携し、ハード対策、ソフト対策を進め、安心・安全な交通環境を確保するとともに、主要幹線道路等の車両等の通行の安全確保や集落の孤立化防止に向けて、道路沿いの危険木の伐採や道路のり面の崩壊防止対策など、山地災害危険地区内等の防災対策を推進します。
- 良好な景観の形成と安全で快適な通行空間の確保、道路の防災性の向上等のため、無電柱化等を推進します。（舞鶴福知山線、福知山停車場線、福知山停車場篠尾線、福知山綾部線、小倉西舞鶴線、広野綾部線等）

□施設老朽化等への備えを強化します。

- 「府民協働型インフラ保全事業」等を活用し、住民の日常生活における身近な気付きを地域の安心・安全の向上やインフラ長寿命化等に反映させます。
- 国の「第 1 次国土強靱化実施中期計画による施策」等を活用し、メンテナンスサイクルの確立や中長期的な視点に立ったコスト管理等により、道路・橋りょう、河川・砂防・海岸施設、農業用ため池、治山ダム、漁港等の老朽化対策を推進します。
- 木造住宅耐震診断士の派遣や耐震改修費用の補助など住宅耐震診断・改修を支援します。

イ 災害対応力の強化

□災害発生時の緊急対応体制を充実・強化します。

- 大規模災害時の自衛隊、警察、消防等防災関係機関の応援隊の集結や救援物資輸送の集配などを担う京都舞鶴港の広域防災活動拠点の機能強化を図るとともに、関係機関と連携した防災訓練を実施します。
- 危機管理型水位計や河川防災カメラ、路面監視カメラの設置及び適切な維持管理に努め、河川の水位や雨量、道路の冠水状況など、災害時の避難に必要な情報を迅速に提供できる環境を整備します。
- 平常時から、地域防災訓練の実施や「災害医療連絡会」の開催等を通じて、自衛隊や防災関係機関、地域災害拠点病院や二次救急医療機関をはじめとする地域の医療関係機関との連携強化と資機材の整備拡充を推進します。
- 大規模災害の発生時には、保健医療福祉調整地域本部により DMA T など保健医療福祉活動チームの受援体制を構築し、迅速な災害救助活動や超急性期から回復期に至る切れ目のない医療・保健・福祉の確保を支援します。
- 大規模広域災害時等において京都の活力を維持させるため、京都 B C P 行動指針に基づき、管内関係市や福知山公立大学、ライフライン事業者等の防災関係機関と連携して、管内工業団地等における災害情報の収集や応急・復旧対策を支援する連携型 B C P の取組を進めます。

□地域ぐるみによる防災・減災対策の取組を支援します。

- 「自らの命は自ら守る」意識を醸成し、地域のつながりを生かして早めの避難を促すため、管内3市及び福知山公立大学などと連携し、自主防災組織における水害等避難行動タイムラインの作成と更新を促進します。

ウ 安心して暮らせる環境整備

□医療・介護・福祉の充実と健康づくりを推進します。

- 中丹地域医療構想調整会議において、外来医療、在宅医療、介護との連携、人材確保等を含めた地域の医療提供体制の課題について協議し、解決に向けた取組を進めます。
- 誰もが安心して地域で暮らし続けていけるよう、医療、介護、福祉等の多職種連携を充実強化し、各市の地域包括システムの構築を支援します。
- 在宅での療養から入退院・看取りまで切れ目のない医療介護サービスを提供するため、医療ソーシャルワーカーやケアマネジャー等の専門職が連携し、情報共有やルール等の共有などにより、在宅療養を支援する体制づくりを進めます。
- 人生100年時代を迎える中で、誰もが元気に生き生きと暮らし社会で活躍できるよう、健康関連データの分析結果を活用し、管内3市、関係機関等との連携のもと、地域課題に応じたエビデンスに基づく事業を展開することで、健康寿命のさらなる延伸を推進します。
- スーパーマーケットや飲食店等と協働した適塩メニューの活用、普及等生活習慣病予防の取組を進めます。
- 「きょうとプレコン」の普及啓発に努め、若年期から性や健康に関する正しい知識を持ち、自身のライフデザインを考え、健康管理ができる取組を推進します。
- 障害者・高齢者等が安定した地域生活を送るため、圏域リハビリテーション支援センターと連携して管内3市等の活動支援を行い、地域リハビリテーションの推進を図るとともに、北部高次脳機能障害者支援センターを中心に、高次脳機能障害支援業務と障害者施策の一体的な推進提供体制の更なる充実を支援します。
- 障害のある人が豊かで自分らしい暮らしができるように、関係機関で構成する中丹圏域障害者自立支援協議会での検討を通じて地域課題の解決を図るとともに、支援者への研修等により、その自立と社会参加の促進を支援します。
- ひきこもりの方に対する身近な相談支援体制を構築し、オンラインによる居場所や民間支援団体による地域の居場所を提供するとともに、チーム絆を中心に管内3市・民間支援団体などの関係機関との地域支援ネットワークづくりを進め、ひきこもり問題を相談できずにいる家族や本人の相談意欲・行動意欲を喚起します。
- 高齢者単身世帯が増加する中、企業ボランティアによる暮らしを見守るセーフティネットの活動を進めます。

□新興感染症などの発生に対応し、特に高齢者や子どもたちが、安心して暮らし続けることができる環境づくりを進めます。

- 令和 8（2026）年 10 月に創設予定の「京都感染症対策センター（京都 C D C）」との連携により、感染症への総合的な対応力のさらなる強化を図り、感染症患者を受け入れるために必要な人材育成、関係団体や医療機関が行う研修等の取組を支援します。
- 感染症法に基づく医療措置協定締結医療機関等と連携し、新興感染症発生時に迅速に対応できるよう体制整備を進めるとともに、感染症の発生状況等に関する情報収集・分析を行い、その情報や感染症の予防に必要な知識の周知に努めます。
- 介護福祉施設や児童福祉施設等において、高齢者や子どもが安心してサービスを利用できるよう、施設職員等への感染症研修の実施などによる感染症対策の取組を支援します。
- 高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病に備え、家畜保健衛生所、管内 3 市、畜産関係団体等と連携し、発生予防、早期通報、迅速な初動防疫、正確な情報提供に取り組めます。

エ 万が一に備えた原子力防災対策の充実

□危機管理体制の充実強化を推進します。

- 原子力災害発生時における広域避難計画の実効性を高めるため、住民・関係機関等と連携した訓練により中丹原子力災害警戒支部・対策支部活動計画等の検証を行うとともに、緊急事態時に避難者の汚染検査・簡易除染、通過証発行等を行う避難退域時検査場所を運営できる職員を育成します。
- 原子力災害発生時の迅速な避難のため、高浜発電所及び大飯発電所から概ね 30km 圏内の半島部や山間部など代替ルートのない路線において、車両の離合困難な区間の道路整備を推進します。（舞鶴野原港高浜線、田井中田線、松尾吉坂線、綾部美山線、舞鶴和知線、上杉和知線、老富舞鶴線、名田庄綾部線等）
- 原子力災害発生時の広域避難ルートを確保するため、舞鶴若狭自動車道の 4 車線化（舞鶴西 I C～福井県境）や国道 27 号（西舞鶴道路、青葉改良）の整備を促進するとともに、小倉西舞鶴線、小浜綾部線等の整備を推進します。

（2）誰もが役割を持って活躍できる「はぐくまれる中丹」

ア U I ターン等により若者等が暮らし続けたいとなる環境整備

□大学等との連携により若者の地域定着を促進します。

- 福知山公立大学や舞鶴工業高等専門学校をはじめ、中丹地域に関わる高等教育機関、高校、地域企業、行政等が連携し、若者が地域課題や企業活動、地域活動に関わる機会を拡充します。
- 小中学生や高校生が地域の産業や暮らし、文化に触れ、学ぶ機会を充実させるとともに、学校、地域企業、地域団体、行政など多様な主体との連携を通じて、地域への理解と愛着を育み、地域の未来を拓く人材を育成します。
- 高等教育・人材育成機関、企業、行政が連携し、若者から社会人、シニア世代まで、学び直しやリカレント教育に加えて、新たな産業創出に取り組める環境づくりを進めます。

□移住希望者の掘り起こしと地域とのマッチングにより移住・定住を促進します。

- 管内3市との移住促進ネットワークに加え、京都移住コンシェルジュや北京都ジョブパーク等と連携し、移住・定住情報の共有、仕事や住まいに関する相談、地域とのマッチング、空き家・空き店舗の活用を進めます。
- 地域の魅力ある暮らしの発信、農村での宿泊体験の提供等の地域に密着した仕事おこし支援、地域コミュニティの交流拠点づくり及びテレワーク施設やコワーキングスペースの整備を通じて、多様化する移住希望者のニーズに対応した移住者支援を進めます。
- 移住者や関係人口が住民とともに地域社会の担い手として活躍できる地域づくりや「二拠点居住者」が副業人材として地域に関わる働き方の実践など、様々なライフスタイルの実現と持続可能な地域づくりを支援します。
- 管内3市や企業、学校等と連携し、SNSや各種メディアを通じて、中丹地域の子育て、働き方、移住、観光・イベント、季節の特産品等の地域情報を管内3市で生まれ育った出身者をはじめ、進学や、転勤、長期出張等ゆかりの方々に対して発信します。

イ 子育てにやさしく安心して暮らせる環境整備

□安心して子どもを産み育てることができる環境整備を進めます。

- 妊娠・出産期から乳幼児期、学齢期までの相談支援や子育てに理解のある職場づくり、地域での見守りを進めるため、「中丹子育て未来づくり100人会議」により交流会などの機会づくりを行うなど、地域全体で子育て世代を支える環境づくりに取り組みます。
- 「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言」の取組を進め、時間単位の年休取得、不妊治療に係る休暇、短時間勤務等の柔軟な制度導入、男性育児休業取得など、子育て世代をはじめ、全ての人が働きやすい職場環境づくりを支援します。
- 児童虐待の未然防止のため、管内3市のこども家庭センターを支援するとともに、教育機関、医療機関等との連携体制の構築を支援します。また、児童相談所の児童福祉司の増員や市町村職員の受入れ、警察との情報共有等を進めます。併せて、「189（イチハヤク：児童相談所全国共通ダイヤル）」の普及啓発などに努め、児童虐待の早期発見、早期対応を進めます。
- 子どもの最善の利益が実現できるよう児童養護施設の専門機能を充実する取組を支援するとともに里親制度の普及など家庭での養育が困難な児童を社会で養護する体制の充実を支援します。
- 医療的ケアを必要とする子どもとその家族の生活を支援するため、京都府医療的ケア児等支援センターと緊密に連携し、医療・保健・福祉・教育等関係機関が連携して対応できるよう、地域支援体制の整備を進めます。
- 人工呼吸器を装着する医療依存度の高い医療的ケア児者は短時間の停電でも生命の危機にさらされている場合があることから、自助、共助に加え、関係機関と連携した体制整備を進めます。

- 集団生活に溶け込めず発達に課題のある子等を、保護者と幼稚園・保育関係者両面から早期に発見することにより、発達障害児の早期療育につなげるため、「発達障害児支援拠点」において医療・福祉・相談を一体的に実施します。
- ICTを活用した学力テストのデータ分析などにより、「主体的で深い学び」や「一人ひとりの能力に応じた学び」を実現します。
- 体験活動や地域活動等を通じて、人を思いやり、尊重する心を育み、豊かな人間性を育成します。
- 子どもたちが地域行事の伝承や体験活動等に関わることにより、ふるさとに誇りと愛情を持つ次代の地域づくりの担い手を育成します。

□ 中丹地域における環境政策を総合的に推進します。

- 学校や関係団体との連携による由良川流域での一体的な海岸漂着物発生抑制に係る普及啓発活動を通じて、次代を担う人材の育成に取り組むとともに、企業・関係団体・行政機関等が連携したネットワークを構築し、効果的な情報提供・共有によって企業における環境活動の推進を図ります。

ウ 誰もが生き生きと暮らせ、人権が尊重される社会の実現

□ 府民一人ひとりが不当に差別されることなく、かけがえのない個人として相互に人権を尊重し合いながら支え合う人権尊重の共生社会づくりを進めます。

- 外国人住民や外国人労働者の増加を踏まえ、関係機関と連携し、地域での日本語教育や交流機会の充実を通じて、外国人住民が地域社会の担い手として活躍できる多文化共生社会づくりを進めます。
- 教職員・社会教育関係者、医療関係者、保健福祉関係者、消防職員、警察職員、公務員、メディア関係者等人権に特に関係する職業従事者が人権に配慮して業務を遂行できるよう、ワークショップ研修やオンライン研修等、様々な研修を通じて人権教育・啓発を重点的に進めるとともに、人権問題を身近に感じられるよう、学校、企業・職場、地域、家庭等あらゆる場を通じ、人権教育・啓発に触れる機会の少ない人に対しても多様な教育・啓発を進めます。
- 部落差別をはじめ、性別による固定的な役割分担意識やジェンダーギャップ、年齢、障害の有無、国籍、性自認・性的指向等に関する人権課題に対応するとともに、差別やいじめ等にあった方への人権相談窓口の周知を図り、誰もが安心して暮らし、地域に参画できるよう、人権教育・啓発の推進と相談体制の整備を図ります。

エ 地域産業・社会を支える人材育成と環境整備

□ 地域での働き方・暮らし方の発信や環境整備を進めます。

- 長田野・綾部工業団地等の産業集積、京都舞鶴港・高速道路網による交通物流基盤、農林水産業など中丹地域の強みを活かし、若者が「中丹で働く・暮らす」将来像を描けるよう、魅力ある企業や多様な働き方、起業・創業へのチャレンジなど、中丹ならではの働く魅力を発信します。

- 企業見学や職場体験、保護者への効果的な情報発信などを通じて、地域企業への理解促進を図るとともに、企業の採用力向上や働きやすい職場づくりを支援し、若者の地元就職と定着の促進につなげます。
- 商工会・商工会議所をはじめとする各種団体や京都府生涯現役クリエイティブセンター等と連携し、中丹ならではの働く魅力を発信するとともに、キャリア形成、リカレント教育、起業・創業、事業承継など、若者や移住者の多様なチャレンジを支援します。
- 一人ひとりがその意思や能力等の個々の事情に応じた、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を選択できるよう、就労環境改善や業務改善など誰もが働きやすい職場環境づくりを支援します。
- 「地域未来づくりプロジェクト交付金」による支援等を通じて、地域活動団体をはじめ、高等教育・人材育成機関、企業や行政など多様な主体との連携・協働を強化し、より柔軟で効果的に地域の課題解決へとつなげます。
- 農村集落における人口減少・高齢化に伴う担い手不足や集落機能の低下を踏まえ、地域共同活動の負担軽減・効率化、複数集落の連携、多様な人材の確保・育成及び地域内外の交流を促進し、持続可能で活力ある農村づくりを推進します。
- 定年帰農者、移住者や兼業農家等の農業従事や農業を通じた生きがいがづくりなどを支援し、集落機能の維持につなげます。
- ツキノワグマによる人身被害を未然に防ぐため、管内3市と連携し、集落にクマを寄せ付けない環境づくりの啓発や出没個体への対応を進めるとともに、住宅地等に出没した場合には、市・警察等と連携し、緊急銃猟等も含めて早期の安全確保に取り組みます。
- ニホンザルによる地域住民への威嚇や家屋侵入等の被害を防ぐため、群れの行動パターンを調査し、追払いや捕獲等の対策を行います。

□ 地域産業の振興、働く場の創出、人材の確保を進めます。

- 長田野工業団地、長田野工業団地アネックス京都三和、綾部工業団地等におけるものづくり産業の集積や京都舞鶴港・高速道路網等の社会基盤を生かした物流関連企業などの立地を促進するため、企業立地促進条例の特定産業集積促進制度の活用や、ディベロッパー（開発業者）と地域とのマッチングやコーディネートなどを通じて、新たな産業用地の確保と誘致企業の開拓を進めます。併せて、関係機関と連携して、地域の人材確保を図るとともに、雇用に伴う住宅等諸問題の解決に向けた取組を支援します。
- 黒谷和紙、丹後和紙、丹波漆などの伝統産業に係る職人技術や素材を生かし、他産業との交流・連携による商品開発などの取組を支援します。
- 消費者のニーズが高い万願寺甘とう等の京のブランド産品や茶等の生産拡大を図るため、産地が培ってきた伝統的な生産技術を継承しながら、スマート農業技術との融合を図るとともに、気候変動に対応可能な新しい栽培技術の普及を推進します。

- 舞鶴漁港及び卸売市場ではコールドチェーン等の機能強化が計画されており、物流環境が大幅に改善されることから、舞鶴かに、岩がき及び都まぐろなど特色ある水産物の振興及び販路開拓を推進します。
- 丹波くりについては、中核的生産者（マイスター）の取組を支援するとともに、新規くり園の造成や栽培技術の向上など京都府丹波くり生産振興計画に基づき、関係機関と連携した生産振興を図ります。
- 地域において、農地利用などの将来計画を定めた地域計画のブラッシュアップを進め、集落の枠を超えた規模拡大や低コスト・高収益な営農体制構築など経営基盤の強化を図る取組を支援するとともに、地域内外の多様な担い手を活用することにより、地域農業の継続に向けた取組を進めます。
- 農地の集積・集約化による生産性の向上や、高収益作物の導入を進めるため、農業生産基盤の整備を推進します。
- 大規模養鶏業者が多いことを踏まえ、高病原性鳥インフルエンザに係る巡回点検・指導等発生防止と発生時に迅速に対応するための訓練の実施など、地域全体で家畜伝染病への防疫対策を強化するとともに、飼料用稲や飼料用米等の自給飼料を活用した安心・安全な畜産物の生産拡大を進めます。
- 若者をはじめ新規就業希望者等が夢を持って就農等できるよう、実践農場の設置や農業大学校、林業大学校、畜産人材育成研修（畜産センター）、「海の民学舎」修了生等の受入れを通じて、地域とともに技術・経営の支援を進めます。
- 木質バイオマス発電施設への未利用材の活用、「京都府府内産木材の利用等の促進に関する条例」に基づく建築物の木造・木質化の推進など木材の利用促進を図るとともに、ICTを活用した森林測量機器や高性能林業機械の導入、主伐から再造林までの一貫した作業システムの普及など伐採・搬出コストの低減に取り組み、木材供給量の増加を図ります。
- 林業事業体による持続的な木材生産をめざした森林経営計画の策定支援、無垢材から合板・燃料まで用途に応じて地元産材を無駄なく効率的に利用する「カスケード利用」の推進等を通じて森林経営の向上を図ります。
- ICTを活用した需給情報をもとに、林業事業体、製材所、加工流通業者、工務店などの関係者による新たなサプライチェーンを構築し、建築資材等への安定した地元産材の供給を図ります。
- 森林経営管理制度に基づく市町村による森林の経営管理の集積・集約化を推進するため、管内3市への技術的な支援や、意欲と能力のある担い手の育成に取り組みます。

（３）受け継がれてきた多彩な魅力あふれる「輝く中丹」

ア 自然や地域文化等の地域資源を生かした交流の拡大と関係人口の創出

□ 中丹地域の魅力を広域的に発信し、国内外からの誘客を促進します。

- 福知山市ファームガーデンやくの（道の駅「農匠の郷やくの」）や舞鶴赤れんがパーク、あやべグンゼスクエア等の地域資源を生かした周遊観光や滞在型観光の充実、体

験型観光の展開を通じて、地域のにぎわいを創出するとともに、関係人口の拡大につなげます。

- 全国でも高い評価を受ける中丹地域のお茶をはじめ、地域で育まれてきた特産品や、黒谷和紙、丹後和紙、丹波漆などの伝統産業の技術や文化を次世代へ継承するとともに、大学生をはじめ企業や行政等の多様な若者が参画し、地域課題の解決や地域の魅力向上に取り組むプロジェクトを推進します。
- 福知山城、京都舞鶴港、あやべグンゼスクエア等の拠点を中心に、周遊促進や滞在型観光の充実、地域文化を活かした観光コンテンツや体験型観光の展開を通じて、地域のファンを増やし、活力と魅力にあふれる地域づくりを進めます。
- 大河ドラマや食の京都などの取組を通じて構築したメディアネットワークを活用し、中丹地域の特色ある食、文化、歴史、自然など観光コンテンツの情報を広域的に発信します。
- 海の京都・森の京都DMOによる旅行商品創出への参画やプロモーションなどの魅力発信により、全国からの観光客を中丹エリアへ呼び込みます。
- 人流、口コミ、宿泊予約データ等の観光データの収集・分析により、観光ニーズにあったプロモーション等を行うことで、効果的な誘客を展開します。
- 丹波くり等の農林産物や歴史・伝統文化等の丹波ブランドを生かし、大丹波連携推進協議会や海の京都・森の京都DMO及び関係市町と連携して食の魅力を発信するとともに、広域的な誘客促進を図ります。
- 黒谷和紙、丹後和紙、丹波漆などの伝統産業や地域文化を、見学、体験、学習、商品開発と結び付け、交流人口・関係人口の拡大と担い手育成に取り組みます。
- 海の京都・森の京都DMO等と連携し、地域資源を生かした魅力的な滞在プログラムの構築等により観光客の滞在時間の延長を図るとともに、地域特性を生かした農家民宿・ゲストハウスなど宿泊施設の開業を支援します。
- 大野辺緑地をはじめとする港湾エリアの魅力向上や利活用を進めるとともに、交流やにぎわいを創出し、市民や来訪者に親しまれるウォーターフロントづくりを進めます。
- 大江山や由良川などの自然を活かし、カヌー、サイクリング、トレッキング、自然観察などの体験プログラムを充実させ、来訪者が地域の自然や暮らしに触れながら滞在・周遊できる観光づくりを進めます。

□ 地域の行事や文化活動等を生かした交流や、農山漁村体験ツアーなどを促進し、地域のファンを拡大します。

- 地域アートマネージャーにより、地域の文化団体等への支援や連携強化を図るとともに、「アーティスト・イン・レジデンス」活動、アーティスト作品の展示、府民参加型の音楽祭などを通じて、文化を活用した地域づくりを進め、人と人との交流を拡大します。
- 地域の祭りや伝統芸能等の地域行催事を次代に継承するため、当日の参加やボランティア等の担い手が確保できるよう、海の京都・森の京都DMO等と連携し、発信力強化の取組を支援します。

- 農業体験や山遊び体験、地引き網体験、クラフト体験（和紙、漆工芸等）など、農山漁村の資源を活用する交流体験プログラムをパッケージ化し、誘客を促進します。
- 「京都モデルフォレスト運動」のボランティア活動を森に親しむ体験の機会としてPRし、賛同する企業やボランティア団体、地域住民など多様な主体の参加交流を促します。

イ ものづくりや先端技術の振興と次世代人材の育成

- 北部産業創造センターや高等教育・人材育成機関との連携による技術支援をはじめ、イノベーション事例の紹介や様々な業種の人材が交流できる場づくりを行い、企業間の連携や企業と高等教育機関との共同研究等を通じた新産業の創出、販路開拓やビジネスマッチングに取り組みます。
- 農林水産業、ものづくり産業をはじめとする地域の産業の高付加価値化と持続的発展に向け、農林水産技術センターの次世代農林水産業・フードテック実証拠点機能を活かした研究開発、技術実証、技術普及及び人材育成、北部産業創造センターにおける技術開発や事業化への支援並びにインフラ・物流基盤の強化を進めます。
- AIをはじめとする先端技術やグローバル化に対応できる人材を育成するため、高等教育・人材育成機関、地域企業、行政等が連携した実践的な学びを推進し、地域産業と地域社会を支える次世代人材の育成を進めます。
- 海外展開や外国人材との協働も視野に、語学、異文化理解、国際的なビジネス感覚を備えたグローバル人材の育成を進めます。

ウ 京都舞鶴港海外航路等の活用による人流・物流の拡大

□ 港から地域への周遊強化など港湾施設の効果を波及させます。

- クルーズ船の京都舞鶴港への寄港に当たって、海の京都・森の京都DMO等との連携による船社への現地ツアープランの提案や、市や関係機関等との連携による港周辺部のまちなか滞在プログラムの創出・提供等を通じて、クルーズ客等の地域での周遊観光を促進し人流の拡大に努めます。
- 企業立地促進条例の特定産業集積促進制度の活用等により、京都舞鶴港・高速道路網等の社会基盤を生かした物流関連企業などの立地促進に向け取り組みます。

（４）人や物の交流の基盤となるインフラ網の整備

□ 国内外で展開する人流・物流に対応するため、港湾施設の機能強化を推進します。

- 取扱貨物量の増加や航路の拡充を見据えた舞鶴国際ふ頭における第2バースの整備促進とⅡ期整備を推進するとともに、大型クルーズ船の寄港に対応できる第2ふ頭の施設整備及び周辺緑地の再整備等に取り組みます。
- 京都舞鶴港から高速道路へのアクセス機能強化のため、国道27号（西舞鶴道路）、臨港道路上安久線等の道路整備を促進します。

□京都舞鶴港のエコ・エネルギーポート化を推進します。

- 京都舞鶴港におけるカーボンニュートラルポートの形成を推進し、水素等の次世代エネルギーの利活用を通じて、国土強靱化・リダンダンシーにも資する日本海側のエネルギー拠点づくりを進めます。

□人流・物流や地域の生活を支える道路の整備を推進します。

- 京都舞鶴港と北部物流拠点をつなぐ、臨港道路上安久線や国道 27 号西舞鶴道路の整備、舞鶴若狭自動車道の 4 車線化を促進します。
- 令和 5 年 4 月に西日本高速道路株式会社へ移管（宮津天橋立 I C から丹波 I C 間）された京都縦貫自動車道について、全国的な高速道路網と一体となった利用促進等を推進します。
- 地域内を結ぶ高速道路網の活用に加えて、円滑な交流活動を促進し、良好な市街地形成を図るため、福知山市・舞鶴市等の市街地間や綾部市の市街地外縁をつなぐ道路整備を市と連携して推進します。（小倉西舞鶴線白鳥工区（舞鶴市）、綾部環状道路等）
- より広域なエリアでの交流・連携を促進するため、府県間の道路整備を推進します。（市島和知線（福知山市三和町上川合～台頭）、小浜綾部線（綾部市））
- 移動手段の多様化による自転車利用の増加に対応するため、誘導ラインの設置や舗装の補修など、自転車の走行環境の整備を進めます。（福知山綾部線、綾部インター線、小浜綾部線、舞鶴和知線、国道 175 号、舞鶴福知山線）

□利便性向上等により公共交通の活用を促進します。

- 地域住民や観光客の移動手段の確保・充実を図るため、J R 山陰本線の高速化・全線複線化に向け取り組むとともに、I C カードの導入等による利用促進、J R 福知山線・舞鶴線・小浜線、京都丹後鉄道宮福線・宮舞線への誘客を促進します。
- 京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会と連携し、路線バスやコミュニティバスなど生活交通の維持や、M a a S（目的地までの移動手段の検索・予約・決済を一括して行えるサービス）等公共交通利用拡大に向けた取組を通じて地域内の移動・交通手段の確保を支援します。

中丹地域振興計画の数値目標

(1) 危機に備え、地域で暮らし続けられる「安心できる中丹」

指標名称	単位	基準値	数値目標
地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合	%	31.9 (2025 年度)	40.0
大学や防災士と連携してタイムラインの更新等を行った地域数（累計）	件	0 (2025 年度)	40
住んでいる地域は、高齢（者）になっても暮らしやすい体制（医療、福祉のほか社会生活全般）が十分に整っていると思う人の割合	%	78.6 (2025 年度)	85.0

(2) 誰もが役割を持って活躍できる「はぐくまれる中丹」

指標名称	単位	基準値	数値目標
大学生等と連携した新たな地域プロジェクト数（累計）	件	20 (2025 年度)	30
住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う人の割合	%	78.6 (2025 年度)	90.0
京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっていると思う人の割合	%	33.1 (2025 年度)	50.0
趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある人の割合	%	72.5 (2025 年度)	80.0

地域振興計画に掲げた取組について、その進捗を客観的に評価するため、計画の最終年度（2030 年）における数値目標を設定します。

※他の計画に位置付けられた数値目標を本計画において設定しているものについては、他の計画の期間満了等によりその計画が改定された場合は、改定後の計画で位置付けられた数値目標に置き換えるものとします。

目標設定の考え方	出典	参考年間目標	関連 方策
地域の防災、防犯体制の強化・充実により、約 10 ポイントの増加を目指す	京都府民の意識調査 （京都府）	2027 年度：34.0 2028 年度：36.0 2029 年度：38.0	アイエ
自主防災組織への防災士等による取組支援を目標に設定	中丹広域振興局による把握	2027 年度：10 2028 年度：20 2029 年度：30	イ
地域包括ケアシステムの充実や地域交通等、暮らしやすい地域づくりの推進により、約 5 ポイントの増加を目指す	京都府民の意識調査 （京都府）	2027 年度：80.0 2028 年度：82.0 2029 年度：84.0	ウ

目標設定の考え方	出典	参考年間目標	関連 方策
地域の魅力発見を通じた人口減少対策につながるよう様々な大学と連携した課題解決型学習等のプロジェクト形成の増加を目標に設定	中丹広域振興局による把握	2027 年度：22 2028 年度：24 2029 年度：26	ア
子育て環境の充実を進め、早期に 90%をめざし、この数値を維持していく	京都府民の意識調査 （京都府）	90.0 （毎年度）	アイ
人権尊重の取組を進め、50%をめざす	京都府人権尊重の共生社会づくり施策推進計画に関する府民調査（京都府）	—	ウ
地域住民の活動支援により 80%をめざす	京都府民の意識調査 （京都府）	80.0 （毎年度）	ウエ

(3) 受け継がれてきた多彩な魅力にあふれる「輝く中丹」

指標名称	単位	基準値	数値目標
森の京都エリアの観光消費額単価	円	4,400 (2025 年)	6,600
海の京都エリアの観光消費額単価	円	16,092 (2025 年)	24,000
歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人の割合	%	81.1 (2025 年度)	90.0
従業者 1 人当たりの粗付加価値額（製造業）	千円	18,027 (2025 年)	23,500
クルーズ船寄港回数	回	13 (2025 年)	40
京都舞鶴港コンテナ取扱量（空コンテナ含む）	TEU	18,239 (2025 年)	25,000

目標設定の考え方	出典	参考年間目標	関連 方策
目標年に基準年の約 1.5 倍	京都府観光入込客等調査（京都府）	2027 年:4,950 2028 年:5,500 2029 年:6,050	ア ウ
目標年に基準年の約 1.5 倍	京都府観光入込客等調査（京都府）	2027 年:18,000 2028 年:20,000 2029 年:22,000	ア ウ
歴史的な文化遺産や文化財などを社会全体で守る取組を進め、90%をめざす	京都府民の意識調査（京都府）	90.0 （毎年度）	ア
目標年に基準年の約 1.3 倍	経済構造実態調査（経済産業省）	2027 年:19,400 2028 年:20,800 2029 年:22,200	イ
過去最高の寄港回数（39 回）を上回ることを目標に設定	京都府港湾局による実態把握	2027 年:25 2028 年:30 2029 年:35	ウ
コンテナターミナルの限界取扱能力である、25,000TEU まで増加させることを目標に設定	京都府港湾局による実態把握	2027 年:20,000 2028 年:22,000 2029 年:24,000	ウ

参考資料

中丹地域戦略会議委員名簿

(令和8年4月現在)

氏名	役職等
座長 倉田 良樹	福知山公立大学 副学長
池田 香理	綾部市コミュニティナース
伊東 昌紀	伊東木材株式会社 代表取締役社長
大石 尚子	龍谷大学政策学部政策学科 教授
小谷 明日香	チームエム株式会社 代表取締役
加登 文学	舞鶴工業高等専門学校 副校長（総務担当）
櫻井 喜仁	中丹地域農業士会 幹事
佐々木 崇人	アヤベックス株式会社・プラスツーリスト株式会社 代表取締役
目見田 園子	昭電工業株式会社 代表取締役
山本 芳華	京都産業大学文化学部文化観光学科 教授

(五十音順(座長除く)・敬称略)